

第4部

その価値とは「おもてなしの心」。 それは、進化し続ける宿場町のDNA。

取材を行ってきて、「大津町が元気」な要因は、やはり大津町の人を持つ「何か」が関係しているはずだと感じました。それは何なのか？
大津町に、昔からある旅館、民宿の皆さんで作られる「大津街道おかみ会」の人たちに話を聞き、語ってもらいました。

村越さん(以下、村越)

民宿「華むら」そして民宿「オアシス」を運営しています。村越です。民宿「華むら」を16年「オアシス」を10年やっています。

田代さん(以下、田代)

民宿「杉の子」を運営しています。田代です。民宿「杉の子」は今年で15年目を迎えます。

橋本さん(以下、橋本)

ビジネス旅館「橋本」とビジネスホテル「橋本」を運営しています。橋本です。私は、平成元年に大津町にお嫁に来て、若女将時代から含めると今年で20年目になります。

大津町の平成18年の宿泊客数が、平成14年比で約350%増となっていて、ほとんどの市町村が減少に転じています。宿泊客数も増えていますが、施設も増え

ています。今、皆さんはどのような経営な

どを行っていかなければならぬと考

えていますか？

村越 (宿泊客数)がそこまで増えてる

感じはしなかったですね。

橋本 350%増というのは単純に施設

が増えたからだと思いました。

村越 どうして大津町がお客様を呼べる

要素があったのか、みんなどのようにし

て調べたと思いますか？

橋本 空港からのアクセスが良く、企業

の数も多いからだと思えます。

田代 やっぱり企業ですかね。でも(多

くのホテルが)来てくれたことで、町の

活性化につながって、今まで大津町を知

らなかった人が、町を知ってくれたら

いなと思えます。

村越 企業が集中して、空港から近いな

ど…でも一番は企業の数が多いというこ

大津町のイメージ

田代 大津町は、水もお米も野菜もすべ
てがおいしいので、いろんなところで恵
まれてるなと思っています。先日、長期の
お客様から土日が休みなので「どこか行

くところはないか」と聞かれたんです。で
も大津町じゃなく阿蘇や熊本城を紹介し
てしまうんですよ。だからもっと知識を
増やして大津町を紹介したいと思いまし
たね。

橋本 そうですね。お客様のニーズに合

わせたプランを作り

たいですね。1泊と

かで岩戸の里まで

何時間か歩いて行っ

て、帰りはリムジン

バスが空港まで送っ

てくれるなどのプラ

ンを。

ここで「旅館 新誠

館」の女将 吉見さ

んが対談に参加。

—自己紹介をお願い

します。

吉見さん(以下、吉

見)

私が女将になって

今年で22年くらいで

すかね、旅館新誠館

の吉見富美江です。

—よろしくお願

いします。

吉見 昔は、いろん



民宿「杉の子」
女将
田代津洋美さん

ていかないと昔のような大津町にはなら

ないと思えます。

—大津町には観光的な面がまだまだ

眠っているところがあるだろうということ

ですよ。

吉見 昔から大津に泊まる人は、仕事で

来るお客様がほとんどだったんですよ。昔

のそのずっと前、企業が来る前は、行商相

手の宿屋だったから。そういうお客様が宿

場町だったの。だから前から観光地との考

えは大津はなかったんですよ。

—皆さんが、日頃気をつけている「おも

てなし」を教えてください。

田代 お客様が来るときに、好き嫌いを

聞くなど、不愉快な思いをさせないよう

に笑顔で接客しています。

料理は特に、旅館や民宿が売りにでき

る部分だと思うので、朝食で手作りの料

理がでたら、それだけでおもてなしにな

るのかなと思います。

橋本 お客様と接するとき、私は大津

町の代表であり、熊本県代表だというこ

とを常に考えるようにしていますので、大

とでしよね。

—皆さんは「大津街道おかみ会」のメン

バーと聞いています。通称おかみ会がで

きたきっかけは何だったのでしょうか？

村越 おかみ会をつくって、一緒に動け

ば、何かできるんじゃないかと思ったん

です。それで、スボ森の活性化を狙い子

どもたちのサッカー大会である「おかみ

カップ」を始めたんです。

—これからのようにしていきたいなど

の思いはありますか？

村越 大津町から発信できるものを何か

企画できたらいいなと思っています。地

域が子どもたちを育てているなら、私た

ちも地域のために何かしたい。何かをす

るときに、地域の人たちが一緒にやって

くれるようなそんな町になって欲しいと

いうのが希望です。

橋本 うちは、平日と週末のお客様の



民宿「華むら」「オアシス」
女将
村越美知子さん

割合が7・3くらいなんです。もし平日
のお客様が来なくなれば、残りの3割で
やっていけるかというところやっぱり難し
いですよね。その7割を埋めるために、企
業努力したり、おかみカップを盛り上げ
たりしないといけないなと思いました。
やっぱり町に貢献したいという思いがあ
るので、根本的なことを忘れず、やって
いけば周りもついてきてくれるんじゃない
かなと思います。

津町ではこういうところがあって、こうい
う料理もおいしいですよと伝えたいです
ね。

おいしい水

橋本 「水道水を飲めますか」って、お客
様によく聞かれるんですよ。飲んで
大丈夫ですよって説明しています。都会
のお客様は浄水器があつてそれから水を
飲むっていう習慣があるみたいで…。熊
本の1番の売りはやっぱり水かなって思
います。

村越 直接口にする水がこんなにおいし

いんですからね。

橋本 それを、私たちの一つの売りにでき

ないかなと思ってるんですよ。

村越 当たり前になってる感覚がある

ので、なぜ水がおいしいのかを伝えてい

けば、みんなが川を綺麗にしなくちゃい

けないって思うようになるのかもしれない

いですね。

吉見 うちでしてきた「おもてなし」と

いうのは、特別なことじゃないんです。お

客様のほとんどが長期滞在の人です。か

ら、ゆつくりして家庭的な雰囲気であ

りてきまされたね。やっぱり、長く滞在して

ると、家庭だったら今日はこんな料理が

できるんじゃないかなって言うのをこちら

がキャッチして、その料理を作ると好評
ですね。だから、私は「我が家にいるよう
なもてなし」でやってきましたね。